

第2回港区3R推進行動会議議事録（要旨）

平成20年12月9日

まとめ

- 3Rの推進に関しては、事業者や環境課との連携を密にして取り組む。
- 今回の会合で出された意見を基に、2月の学習会・3月のシンポジウムの企画案を作成することとする。

1 区挨拶

- 高木課長より挨拶。
- 10月1日から資源回収を開始し、不燃ごみ量は85%減少したが、汚れたプラスチックが加わり可燃ごみ量は多少増加した。
- ごみはリサイクルすればよいということではなく、発生抑制にしっかり取り組む必要がある。

2 資料説明

事務局からの説明

(1)家庭での不燃ごみ実感調査結果概要

- 今年3月以降の分別変更前に、2回に分けて行った。
- 回答数26。

(2)プラスチック/プラスチックマーク調査結果

- PEやPP等の素材説明表示が分からないとの意見があった。
- 回答数46。

(3)事業者セミナー・事業者交流会要旨

- 11月11日（火）エコプラザにて事業者セミナーを開催した。
- 事業者セミナーには、事業者・市民14名、スタッフ等を含め23名が参加した。
- 11月20日（木）世界貿易センタービルにて見学会、エコプラザにて意見交換会を行った。
- 見学会には事業者・市民4名が参加した。

(4)リユース食器活用イベント報告

- 10月19日（日）芝浦運河まつりにてリユース食器の貸し出しを行った。
- 3,000枚用意したうち、約900枚を使用した。
- 模擬店では、使い捨て容器の利用者が多く見られた。
- ごみ分別ステーションを設置し、プラスチックについては簡易洗浄を行った。
- 紙皿換算で、12.7キロのごみ削減効果があった。
- 会場内に、リユース食器をPRするポスターを掲示し、啓発を行った。

(5)第3回容器包装3R推進フォーラム報

- ・10月6日(月)、7日(火)東京国際交流館プラザ平成にて、第3回容器包装3R推進フォーラムが行われた。
- ・分科会5「市民参加」に、港区3R推進行動会議から話題提供を行った。

3 全体討議

調査、セミナーについて

- ・スーパーなどに協力を求めて、商品について調査するような機会を設け、もう少し情報を集めたい。
- ・区民等、興味のある人を募って実施した方が、消費者目線での調査ができる。
- ・調査に参加したが、マークはあっても、プラマークの意味が分からない。その説明ができなければマークを付けても意味がない。
- ・調査対象が個人だったため、協力を得るのが難しかった。他の方法を考えた方がいい。
- ・調査方法自体が分かりにくいという意見を多くもらった。
- ・スーパーの調査はやってみたい。
- ・集積所を見ても、不燃ごみは本当に少なくなった。
- ・分別不良ごみの取り残しに対する区民の理解が広がっているという実感がある。
- ・プラ回収について3,500人ぐらいに直接説明をしたが、プラスチックを洗うということまではたどり着いていないという感じ。
- ・水を使いすぎるのも問題。
- ・区では残り水を使うようお願いしている。
- ・汚れがあるとリサイクル対象にならないことを知ってもらう必要がある。
- ・ペットボトルはキャップが取りにくい。ラベルもはがしにくいものがある。
- ・キャップのリングはついたままでOK。
- ・見学会などに参加した人は、どこまでやればいいのか分かっているので、まずは体験型で分かってもらうことが大切。
- ・見学会も交流会もプログラムが素晴らしいのに、参加者が少ない。やり方を考えた方がいい。
- ・情報は大勢で共有した方がいい。企業も情報が欲しいはず。特に中小企業は担当を置けないのでありがたいはず。
- ・イベントは、3か月前から周知、1か月前には参加者が決まっている状態にするべき。今回はあまりにも急すぎた。
- ・今後増えていくことが理想だが、まだ1回目なのだから参加者が多い、少ないという議論をすべきではない。
- ・セミナーでのお話、環境イコールコスト。実は環境への取り組みはコスト削減にもなる。こういったご時世だからこそ聞いてもらいたいお話だった。ぜひ事業者に聞いてもらいたい。
- ・意見交換会は平成21年度から、2回程度実施する計画になっている。
- ・みんなと3Rホームページにセミナーの内容を掲載している。

運河まつりについて(リユース食器)

- ・皿洗いの際、水についての疑問が出た。ごみの発生抑制だけでなく、環境に配慮した米ぬか洗剤、溜め水、ぼろ布を使用した。
- ・環境に対する、ごみ、水など、全体を踏まえた調査結果を出してほしい。

- ・商店街でもリユース食器に協力してくれる店も増えている。
- ・イベントでのごみ分別ステーションは区と住民とが協力があってできたことだと思う。
- ・PTAの周年行事で利用したいということで、研修生を送ってきた学校もあった。
- ・きちんと情報を整理し、地域で関心を持ってもらい普及させていくことが大切。
- ・地域新聞などに取材してもらうことも参加者の意識を高める。
- ・清掃リサイクル課はごみの減量に目が行ってしまうが、環境とごみ問題をリンクさせて取り組みたい。
- ・現場ではごみの重さでなく、容積が気になる。一般に方もわかりやすいと思う。
- ・エコポイントがなかなか進んでいない。商店街との連携もやらなければいけない状況。
- ・省エネルギーセミナーをエコプラザで2回やったが、いずれも200人以上が参加。関心は高いので、事業者への働きかけは必要。

学習会のテーマ設定について

- ・学習会は今年度の中心になるプロジェクトであるが、具現化できていない。
- ・住民、在勤者に向けた学習会が必要。まず2月頃を予定している。
- ・事務局からテーマを提示するのではなく、区民が関心のあることをテーマにしたい。
- ・仲間作り、人材育成ということにしたいが、年度区切りでの業務なので、まずは2月に1回。
- ・いくつかのテーマを出して、組み合わせたりしながら決めていきたい。
- ・これまでのイベントなどを活かしながら学びの場を作っていきたい。
- ・容器包装プラのスーパー調査も一つの体験型学習会。
- ・容器包装3Rフォーラムに参加し、翌日の見学会にも参加した。区から出たごみのゆくえを実際に目で見て理解することができた。見学会がいいのでは。
- ・体験型学習会はひとつやってほしい。事業者向けもひとつ。
- ・「リユースイベントの仕掛け方」もいい。衛生面など体験者の話を混ぜて。
- ・持ち帰る、食器洗浄車、給食室などを借りるなど。食べ終わったらさっと拭いておくという協力も大事。
- ・マニュアルにも衛生面、保健所などについて記載してある。
- ・55の商店会でもイベントについて話し合う機会が必要だと思う。
- ・実際のイベントでは持ち帰りが多い。事故もないし、使い捨てが安心。洗う場所もない。
- ・婦人部でも大変なことは避けたい。新聞紙を使って汚れを拭くなど工夫もしている。
- ・レジ袋もごみ袋に使っているので環境に悪いばかりでもない。
- ・過剰包装についても声をかけるようになっている。
- ・マイバックでのお買い物は定着しつつある。
- ・小売店としてはマイバックを悪用した万引きがあるから、透明の袋などの対策が必要。
- ・レジ袋削減への関心は非常に高まっている。
- ・セミナーの話はとても面白かったが、港区にはあのような活動はないのか？身近の人を取りあげることが大事。
- ・貿易センター見学は、収穫が多かった。事業所で取り組んでいる人の話も聞くことができた。そのような身近な人を区から紹介してほしい。
- ・港区には大きな企業が多いから素晴らしい取組が多いはず。
- ・今日行われている企業と環境展も面白そう。それぞれがやるのではなく、なるべく一緒に行うことに効果がある。

- ・ 集団回収について勉強したい。新宿区では今月はいくらか掲示板に出している。関心も高まる。
- ・ 生ごみについて熱心な区もあるので、話を聞いてみたい。
- ・ 区では生ごみ処理機の助成金を設けていて、少しずつ増えている。区内で100は超えている。PRの場があればやりたい。
- ・ 京都、横浜でも生ごみ対策が始まっている。都心部でも動き出した。
- ・ 優良企業表彰制度はいい。コスト削減は企業秘密にもなるが、情報がほしい。
- ・ 集団回収について、町会で取り組みたいがマンション単位でやってしまい、分派行動になっているという意見もある。
- ・ 町会とマンションの連携もいいと思うが、難しい問題。
- ・ 集団回収の報告会がなくなった。以前は2,3年やっていないと思う。町会との接点になっていて、悩み相談の場にもなっていた。
- ・ 学習会は2月、3月にシンポジウムなど、事務局で案を練ってほしい。
- ・ 町会に聞くと、防犯・防災ばかりに関心が集まるので、ごみ問題の周知徹底のためには勉強会に来てもらうことがいい。
- ・ ごみのテーマは地味なので、それだけでなく他のテーマとくっつけないと参加しない。
- ・ 貿易センタービルのレストランには別の収集車が来ているが、ごみの混在が見られる。捨てる側のモラルがない。そのごみがどのように処理されるか知りたい。
- ・ 港区はマンションが多く、居住者はごみの管理をほとんどが管理会社に委ねているので、管理会社とも連携していくことが必要。

4 その他

次回会議の確認

- ・ 次回は2月4日(水)10時から開催予定。
- ・ 今月中に学習会テーマを提示し、2月に報告する。
- ・ 3月16日か17日の夜間にフォーラムを開催する予定である。